

タマネギに発生する病気

3月の農作業

■べと病

- 葉色は光沢のない淡緑黄色で、生育も劣り、葉は外側に湾曲しているため草丈も低く横に開きぎみに見える。
- 3月中旬から5月上旬に曇雨天が続くとより発生しやすい。
- 2月から3月に降雨で多湿になると、全身に白色または露状または暗紫色のカビが見られることが多い。
- 秋から春期の長雨や暖冬の影響で近年増加傾向にある。



べと病

【防除】

- 発病株があれば抜き取り、処分する。
- 前年に発生があったところは注意し、早めの防除を行う。
- 早生品種では防除時期をやや早める必要がある。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内

■黒斑病

- 苗床でも発生するが、秋植えたまねぎでは4月上旬以降に発生しやすい。
- 降雨や露が長く残り、気温が15℃以上になると発生しやすい。
- 連作すると発生しやすい。
- 生育中期以降に葉の中央部付近に黄褐色の病斑をつくる。



黒斑病

【防除】

- 被害のひどい圃場は連作を避ける。
- 発病前から予防的に薬剤散布を行う。
- 収穫時には被害葉をあつめ、焼却するなどして圃場衛生につとめる。

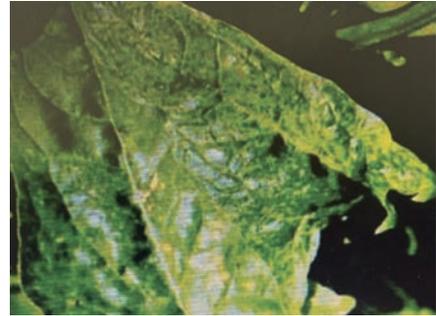
適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
ジマンダイセン水和剤	400~600倍	収穫3日前まで	5回以内

ホウレンソウに発生する病気

3月の農作業

■ ウイルス病

- 生育初期に感染すると、苗のうちに枯れる。
- 生育後半に発生すると新葉が緑黄色に変わり、葉脈が透明になり、濃淡のモザイク状を生じる。
- 被害が進むと葉の縁がちぢれて奇形を呈し、萎縮してくる。
- さらに症状が進むと、外葉から黄褐色に変わり枯れてくる。
- アブラムシが多いと発生しやすい。
- 暖冬で乾燥するとアブラムシの越冬が多く、春に発生しやすい。



ウイルス病

【防除】

- 発生した場合は早めに圃場から持ち出し処分する。
- アブラナ科野菜が栽培されている近くでは多発する危険があるので避ける。
- 圃場の周囲などの防除を行い伝染源となる雑草を除去する。

■ べと病

- 下葉の表面に健全部との境界がはっきりしない黄白色の小さな斑点ができる。
- 斑点は次第に拡大して淡黄色または淡紅色の不正円形になる。
- 病斑の裏にはねずみ色または灰紫色のカビを生じる。
- 秋と春の天候が不順な年には発生が多いので注意して見回る。



べと病の被害葉

【防除】

- 発生前から薬剤散布を行って予防する。
- 雨除け栽培を行うのも有効。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
アリエッティ水和剤	1,500倍	収穫前日まで	2回以内

裏面はタマネギに発生する病気を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.347 令和2年3月15日発行